令和6年度　TDL(単元内自由進度学習)に関する生徒へのアンケート調査

（1）アンケート調査の概要と結果

◇調査対象：第２学年、第３学年（計 228 名）

◇調査日時：令和６年 10 月 16 日（水）、18 日（金）　※Forms を使用し、朝読書の時間に実施

◇質問項目別 回答結果（%）　各質問項目における数値的結果（%）

【1：はい　2：どちらかといえば、はい　3：どちらかといえば、いいえ　4：いいえ】

アンケート質問文	1	2	3	4
①単元内自由進度によって、教科の知識・技術が深まった	24.6	55.3	16.2	3.9
②単元な自由進度学習によって、教科の思考・判断・表現力が高まった	29.8	52.2	14.5	3.5
③単元内自由進度学習によって、教科の主体的に取り組む態度が身についた	32.0	45.2	17.1	5.7
④単元内自由進度学習は授業を進めるうえで必要な活動であった	20.2	50.4	20.6	8.8
⑤単元内自由進度学習を通して、自分に適した学習ペースや方法がわかった	32.5	50.4	11.4	5.7
⑥単元内自由進度学習は楽しい活動であった	26.8	45.6	17.5	10.1
⑦単元内自由進度学習で協力して学習を進めることができた	36.4	49.1	10.5	4.0
⑧単元内自由進度学習は自分に合っていると感じた（※選んだ理由も記入）	19.3	36.8	30.7	13.2
⑨単元内自由進度学習が今後も続くのは不安である（※選んだ理由も記入）	8.3	15.4	51.3	25.0
⑩単元内自由進度学習で特によかった取り組みをしていた教科を教えてください（複数回答可、選んだ理由も記入）				

（2）自由記述における結果

【①単元内自由進度学習が合っていると感じた理由】

- 自分のペースで進めることができる －66 件
- 周りに合わせなくていい －８件
- わからないところを友達や先生に聞ける －７件
- 自由に進められる －６件
- 自分の苦手なところを重点的に勉強できる －５件

【②単元内自由進度学習が不安であると感じた理由】

- 自分の進みが遅くておいていかれる所 － １１件
- クラスの人の進みと差ができること － １０件
- 自分が上手く出来るか不安 －５件
- 周りがうるさい －３件
- ちゃんと終わるか －２件
- ほかの学校とかと受験で差ができてしまいそうなとこ －２件
- 授業回数予定日が早く追いつかないから、焦って適当にやってしまう －２件

【③単元内自由進度学習で特によかった取り組みの具体例　※複数回答】

- 自分（自分たち）で進めて聞いたりする － ９件
- 自分で教科書やスタサプを使い、自分で学習する －５件
- セクションごとに小テストがあったり、テスト対策用のプリントがあったりした －４件
- 自分（自分たち）で進めて聞いたりする － ９件
- 自分で先に問題に取り組めること －３件
- 自分に合った勉強の仕方(教科書,スタサプ)を選ぶことができる －３件
- 自分で進められる、友達に考え方を聞ける －３件
- 早く終わった人用に応用問題が豊富にある －３件
- 友達と分からないところを話し合ったり教えあったりする時間が設けられていた －３件

（３）考察　～生徒が捉える「単元内自由進度学習」の実態～

①各質問項目における数値的結果（％）より

各質問項目における数値的結果（％）より以下のことが読み取れた。

①単元内自由進度学習（以下、自由進度）によって、知識・技能が深まったと答えたものは７９．９％、思考力・判断力・表現力については、８２．０％、主体的に取り組む態度については、７７．２％であった。評価基準である３項目において７５％以上を示しており、単元内自由進度学習が生徒にとって有効な学習手段であると考えられる。②自由進度が必要であったと答えた生徒は７０．６％でありこの学習の価値を高めている。③自由進度によって自分に適した学習ペースや方法がわかったと答えた生徒は８２．９％であり、生徒が学習を自己調節しながら進めるための礎を築くことができる学習活動である。④自由進度は楽しいと答えた生徒は７２．４％であり、生徒が自由進度に興味をもって、主体的に取り組むことのできる学習活動である。⑤自由進度で協力して学習を進めることができたと答えた生徒は８５．５％であり、生徒は自身で課題を進めつつも、協働的に学習を進めることができる学習活動である。⑥自由進度が合っていると答えた生徒は５６．１％であり、従来型の授業とのギャップを生徒は感じている。⑦自由進度に不安を感じている生徒は２３．７％であり、低い数値ではあるものの、従来型の授業との差異を感じ、自分で学習を進めることや、他者との差が広がってしまうことに、不安を感じている生徒が一定数いる。

②自由記述の結果より

自由記述の結果より、以下のことが読み取れた。

①自由進度があっていると理由としては、「自分のペースで学習ができる」ことが最も多かった。また、「自分の苦手なところを重点的に学習できる」や「わからない所を友人や先生に聞ける」など、自由進度において重要なポイントを生徒が自覚しながら学習を進めることができていると考えられる。②自由進度が不安である理由としては、「自分の進みが遅く、おいていかれる」や「クラスの人との進みと差が出ること」があげられ、教師が適切に課題を設定し、指導の個別化を図り、生徒一人ひとりが学習の達成感を味わえるようにする工夫が必要である。③自由進度でよかった取り組みをしていた教科は数学が最も多く、自由進度との親和性が非常に高い。次いで理科では、振り返り的に自由進度の時間をとったり、社会では調べ学習や既習事項のまとめをしたりするなど、親和性の低い教科でも生徒の学習の個性化を図ることができる。④取り組みの具体例では、突出した具体例は上がってはいないが、教師の工夫によって指導の個性化を図ることができることがわかった。

③総括

自由進度における生徒の印象はポジティブなものが多く、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する上で有効な学習方法であるといえる。自由進度と親和性の低い教科においては、振り返り的な自由進度や調べ学習、単元構成シートを用いて学習のロードマップを示すなど、工夫が必要であるが、各教科で取り入れやすい単元を選定、試行錯誤し、自由進度を実施することが重要である。

一方、従来型（一斉型）の授業で他者との進度の差を実感できなかった生徒が、自由進度によってまわりとの差が顕在化されるため、自由進度に不安を感じる生徒も一定数いた。本来、進度の差を解消するための取り組みである自由進度であるが生徒にとってはできない自分が見えてしまうことによる不安も大きいと考えられる。自由進度という取り組みのねらいや意義を、保護者も含めて周知、説明していくことが重要である。